学校番号	３０８

平成 31 年度　理科

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「科学と人間生活」（新興出版社　啓林館）						
副教材等	自作教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「科学と人間生活」という科目では、科学のいろいろな分野と人間生活との関わりについて学びます。身近な現象に関する観察や実験なども行い、科学的に考えることにより、その内容に対する理解を深めます。実際に観察できないようなものについては、映像教材や作業実習を通して理解を深めます。教科書にはない科学ニュースなども取り入れ現在の科学の話題についてもふれようと思っています。生徒の皆さんは日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもってほしいと思います。

2　学習の到達目標

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活にはたしてきた役割について理解し、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味関心を高める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、自然や科学技術に興味関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけようとしている。	身近な自然現象あるいは身の回りの物質や生物に関する問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	身近な自然現象や科学技術に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の現象を科学的に探求する技能を身につけている。	科学や自然現象について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察(授業での積極的な発言や態度) ノートやプリントの記述 レポートの作成や発表	学習状況の観察 ノートやプリントの記述 課題研究のレポートと発表 定期考査の結果	観察や実験の時の様子（参加度、記録など） 観察や実験の記録やレポート 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやプリントの記述 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生命の科学・物質の科学	科学技術の発展	○				a:通信技術を題材に、科学技術の発展に関心を持ち、意欲的に探求しようとする。 b:最近の科学の話題をまとめ、その内容を表現できる。 c:視覚の実験や物質の実験をおこない、実験の方法を習得し、結果を記録整理できる。 d:微生物と人間とのかかわりについて理解し、知識を身につけている。	学習状況 ノート・プリント 観察・実験 定期考査
		人間の視覚と光			○			
		微生物と人間生活とのかかわり				○		
		食品の科学				○		
		材料とその利用(ガラスの性質の実験)			○			
		最近の科学の話題		○				
2学期	光や熱の科学・宇宙の科学	光の性質とその利用			○		a:私たちのまわりにある天体について関心を持ち、意欲的に探求しようとする。 b:自分で見つけた課題について考察し、導き出した考えを表現できる。 c:光や熱に関する実験を通してそれらの性質を理解する。 d:１日や１年はもともと天体の運行から決められたことを理解し、知識を身につける。	学習状況 ノート・プリント 観察・実験 課題研究レポート 定期考査
		熱の性質とその利用			○			
		太陽系の天体の特徴	○					
		天体の運行と人間生活				○		
		課題研究		○	○			
3学期	自然景観と災害	地震による景観と災害				○	b:火山の知識を身につけた上で、火山による恩恵と災害について考察し、表現する。 d:地震に関する正しい知識を身につけ、防災に役立つようにする。	学習状況 ノート・プリント 実習
		火山による恩恵と災害		○				

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。